② 数理計算上の差異の費用処理方法

数理計算上の差異については、各事業年度の発生時における職員の平均残存勤務期間以内の一定の年数（10年）による定額法により按分した額を、それぞれ発生の翌事業年度から費用処理しております。

⑸ 役員退職手当引当金

役員に対して支給する退職手当に備えるため、当事業年度に負担すべき支給見込額を計上しております。

3．船員保険法第124条の準備金の計上基準

船員保険事業に要する費用の支出に備えるため、船員保険法施行令（昭和28年８月31日政令第240号）第28条に定める基準により、計上しております。

4．キャッシュ・フロー計算書における資金の範囲

キャッシュ・フロー計算書における資金（現金及び現金同等物）は、手許現金、随時引き出し可能な預金及び容易に換金可能であり、かつ、価値の変動について僅少なリスクしか負わない取得日から３ヶ月以内に償還期日の到来する短期投資としております。

5．消費税等の会計処理

税込方式によっております。

Ⅲ 貸借対照表関係

有形固定資産の減価償却累計額　12,889,815円

Ⅳ 損益計算書関係

該当事項は、ありません。

Ⅴ キャッシュ・フロー計算書関係

資金の期末残高と貸借対照表に掲記されている科目の金額との関係

現金及び預金	45,159,778,345円
資金期末残高	45,159,778,345円

Ⅵ 金融商品関係

1．金融商品の状況に関する事項

当協会は、資金運用については、健康保険法施行令（大正15年６月30日勅令第243号）第１条に定める金融商品に限定しております。

未収債権等については、当協会の定める債権管理方法に従って、財務状況の悪化等による回収懸念の早期把握や軽減を図っております。

2．金融商品の時価等に関する事項

期末日における貸借対照表計上額、時価及びこれらの差額については、次のとおりであります。

（単位：円）

	貸借対照表計上額	時　価	差　額
⑴ 現金及び預金	45,159,778,345	45,159,778,345	
⑵ 未収入金	3,000,085,296		
貸倒引当金	△ 210,593,241		
	2,789,492,055	2,789,492,055	
資産計	47,949,270,400	47,949,270,400	
⑴ 未払金	3,198,866,744	3,198,866,744	
負債計	3,198,866,744	3,198,866,744	

㈱ 金融商品の時価の算定方法に関する事項

資産

⑴ 現金及び預金

短期間で決済されるため、時価は帳簿価額にほぼ等しいことから、当該帳簿価額によっております。

⑵ 未収入金

回収見込額等に基づいて貸倒見積高を算定しており、時価は決算日における貸借対照表価額から現在の貸倒見積高を控除した金額に近似しているため、当該価額をもって時価としております。

負債

⑴ 未払金

短期間で決済されるため、時価は帳簿価額にほぼ等しいことから、当該帳簿価額によっております。

Ⅶ 退職給付関係

1．採用している退職給付制度の概要

当協会は、職員の退職給付に充てるため、退職一時金制度（非積立型の確定給付制度）を採用しております。

退職一時金制度では、退職給付として、勤続年数及び等級に基づく累積ポイント並びに退職事由に基づき決定された一時金を支給します。

2．確定給付制度

⑴ 退職給付債務の期首残高と期末残高の調整表

退職給付債務の期首残高	499,916,812円
勤務費用	27,225,424円
利息費用	550,529円
数理計算上の差異の発生額	△2,246,529円
退職給付の支払額	△103,320円
退職給付債務の期末残高	525,342,916円

⑵ 退職給付債務及び年金資産の期末残高と貸借対照表に計上された退職給付引当金及び前払年金費用の調整表

非積立型制度の退職給付債務	525,342,916円
未積立退職給付債務	525,342,916円
未認識数理計算上の差異	△69,569,864円
貸借対照表に計上された負債と資産の純額	455,773,052円
退職給付引当金	455,773,052円
貸借対照表に計上された負債と資産の純額	455,773,052円

⑶ 退職給付費用及びその内訳項目の金額

勤務費用	27,225,424円
利息費用	550,529円
数理計算上の差異の費用処理額	4,016,138円
確定給付制度に係る退職給付費用	31,792,091円